



小笠東小学校

学校だより



「自信をもち 自分の力を発揮する子」 令和6年2月21日

1 児童・保護者 アンケート結果

日頃より、学校の教育活動への御理解・御協力をいただき、ありがとうございます。今回のアンケートでは、項目「授業に主体的に取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」の肯定がともに向上しました。今年度は、すべての学年で児童発信の活動を積極的に取り入れました。「わからないを大切に授業をするにはどうしたらいいだろう、そうだ、対話を大切にしてみよう」「地域に元気をとどけるにはどうしたらいいだろう、そうだ、地元企業から学んでみよう」…。今では、主体性をのばす「そうだ、〇〇してみよう！」の合言葉が日常的に聞こえるようになりました。

| | 項目 | R4 | | R5 | |
|---------------|--|------|------|------|------|
| | | 肯定的 | 強肯定 | 肯定的 | 強肯定 |
| | ★ア～ク 菊川市共通数値目標 | | | | |
| 自己肯定感 | 1 ★ア 学校が楽しい。 | 93.3 | 68.8 | 89.3 | 50.8 |
| | 2 ★イ みんなで何かをするのは楽しい。 | 96.2 | 83.7 | 93.3 | 75.4 |
| | 3 (R4)自分からあいさつをしている。(R5)進んであいさつをしようとしている。 | 86.5 | 63.9 | 88.2 | 47.7 |
| | 4 相手の名前にさん付けしている。 | 94.7 | 82.7 | 96.9 | 75.9 |
| 学力向上 | 5 ★ウ 授業に主体的に取り組んでいる。 | 86.5 | 44.2 | 90.3 | 31.3 |
| | 6 ★エ 授業がよくわかる。 | 90.9 | 55.3 | 90.8 | 39.0 |
| | 7 ★キ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。 | 75.0 | 39.4 | 80.4 | 31.4 |
| | 8 ★ク (R4 12年) (R5～全学年) 授業では、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。 | 96.7 | 80.3 | 95.7 | 57.0 |
| | 9 [3年生以上] ①授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。 | 94.6 | 68.7 | 94.8 | 45.9 |
| | 10 ②学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。 | 88.4 | 44.9 | 69.2 | 24.8 |
| | 11 ③学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。 | | | 62.4 | 18.0 |
| | 12 家で予習をしている。 | 62.0 | 31.7 | 58.5 | 26.7 |
| 13 家で復習をしている。 | 79.8 | 47.6 | 86.2 | 54.4 | |
| 連携 | 14 ★カ [5 6年] 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。 | 76.4 | 36.5 | 68.6 | 14.3 |
| | 15 ★オ 学校に、信頼することのできる先生がいる。 | 94.2 | 72.6 | 87.2 | 63.6 |
| | 16 学校は積極的に情報発信している。(保護者) | 97.1 | 41.8 | 97.8 | 45.5 |

肯定的評価 当てはまる どちらかと言えばあてはまる ほぼ毎日 週1回以上

強肯定評価 どちらかと言えば当てはまる 週1回以上

2 令和5年度の 成果と課題

- (1) 「自分もみんなも主体性をぐんぐんのぼす学校」の具体的姿を共有している
項目「授業に主体的に取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」の肯定がともに向上しました。
主体性をのぼす「そうだ、〇〇してみよう！」を合言葉とした児童主体の活動が、年間を通してどの教科にもちりばめられている成果だと思えます。また、児童会を中心にしてお見つけた学校の未来像「**た**対話の**ち**力**つ**つなげて発表**て**でてくる考え**と**とどける反応**た****ち****つ****て****と**」が共有され、具体的な目標になって動き出した成果でもあります。
- (2) 「思いやり環境」が「当たり前なこと」として定着し始めている
項目「進んであいさつをしようとしている」「相手の名前にさんをつけている」の肯定が向上しました。意識をしなくてもぺこりとおじぎをして、さん付けを自然にする「東小の子」は、学校だけでなく、地域においても温かな雰囲気をつくりだしています。
これは、岳洋学舎の目標を受けて、令和2年度に始まった児童発「ぺこりあいさつ」が、引き継がれ、地域を巻き込む大プロジェクトとして進化していることを表しています。
- (3) 学ぶ意欲を継続する必要がある
項目「家で復習をしている」の肯定的評価の向上は、「もっと学びたい」という学ぶ意欲の表れです。しかし、「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよくわかる」の強肯定評価が低下しています。児童の学ぶ意欲を、明日に、明後日に、そして将来につなげるために、さらなる意欲の継続を目指す必要があります。

3 令和6年度の小笠東小学校の教育活動

教育目標 「自信をもち 自分の力を発揮する子」(岳洋学舎共通教育目標)

重点目標 「学ぶ意欲を 明日に、明後日に、将来につなげよう」

4 めざす子供の姿を実現するための学校の姿

- (1) 共に自己肯定感を高める学校
「みんなで何かをするのは楽しい」と肯定的評価をする児童、90%以上を目指します。
- (2) 児童が主体的に学ぶ学校
「授業に主体的に取り組んでいる」と肯定的に評価する児童、90%以上を目指します。
- (3) 地域とともにある学校
「地域や学校をよくするために何をすべきかを考えることがある」と肯定的評価をする児童、70%以上を目指します。

5 令和6年度の具体的な取り組み

- (1) 「学ぶ意欲」の継続をめざすPDCA サイクル
「もっともっと学んでみたい」を見つける 1学期 【できそうだ!】
「もっともっと学んでよかった」を実感する 2学期 【おもしろい!】
「もっともっと学びたい」を明日につなげる 3学期 【とめられない!】
- (2) 温かな土壌づくりと徹底した危機管理で安心・安全な学校
ア 「思いやり環境」による人権意識の向上
相手を尊重した呼び方や言葉遣い、整理整頓、椅子をしまう、衣服を畳む等気持ちのよい生活、わかりやすさを大切にした特別支援教育を基盤にした学校づくり、多様性を認め合う温かな人間関係、目の届かない時間と場所の確認で変化を見逃さない体制、いじめの兆候への即介入、「学校いじめ防止基本方針」に基づく迅速かつ適切な対応
イ 危機管理の日常化
「いざというとき」に発揮する廊下等の歩行訓練の日常化
徹底した防犯体制(昇降口や体育間通路の開閉、受付の徹底等)
元気に来た児童が元気に帰る衛生管理
- (3) 失敗と成功から学ぶ「活動づくり」
ア 1回でできなくてもいい、100回挑戦する「心のチャンピオン」を目指します。
イ 明日も明後日も将来も学び続ける方法を児童が考えるようにします。
ウ 児童発「ぺこりあいさつ」を東小の伝統にして引き継ぎ進化させます。
- (4) 「学ぶ意欲」の継続と向上をめざす「学びづくり」
ア 「できそうだ、おもしろい、意欲がとめられない」を実感する授業を目指します。
イ 本と人に触れる機会を計画的に設定します。
- (5) 地域とともにある学校をめざす「岳洋学舎連携」
ア 総合的な学習の時間(チャレンジ)を中心にしてお地域参画意識を向上します。
イ 「学びの庭」を意識した情報発信を続けます。